同期は社長と高校生、そしてマジシャン

冬川冬樹

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

僕は、ＶＴｕｂｅｒになりたい。

憧れてる。憧れの人がいる。

その人といつか、一緒に配信したい。

あはよくばその人と…

※この物語はフィクションです。

実際の建物、人物やＶＴｕｂｅｒとは関係はありません。

ＶＴｕｂｅｒや会社はリスペクトしております。

この小説はただの思いつきなので途中テキトーな所があります。

それでも良いという方はゆっくりしてってね！

目次

第1話 …… 1

第1話

※この物語はフィクションです。

実際の建物や人物とは関係はありません。

人物や会社、ＶＴｕｂｅｒの皆様はリスペクトしております。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

僕は憧れてるものが1つある。

それはバーチャルＹｏｕＴｕｂｅｒ、通称『ＶＴｕｂｅｒ（ブイチューバー）』になる事だ。

何故なりたいか、それはある一人のＶＴｕｂｅｒの配信を見た事だ。

僕はその人の配信を見て、ＶＴｕｂｅｒになろうと決心した。

あの人に少しでも近づく為にも。

、、、

こうしてＶＴｕｂｅｒになろうと決心した僕。ちょうど１８歳だし動画とかも出してるしまぁ応募条件は大丈夫だろ。

そう思い応募したのはいちから株式会社、にじさんじのある所。

ホロライブというカバー株式会社がやってるＶＴｕｂｅｒ会社もあったが、にじさんじなら男性でも輝けると思ったからね（個人の印象です）。

録音を撮る。これは会社に送る為の物なので最初の印象は大事だ。

息を吸い、第一声を発する。

「こんにちは！天津　凱人（あまつがいと）と申します！」

そうしてなぜ会社を希望したのか、そして自分の事を少し話し、時間的には後1分くらい、なので自分の憧れの人について話してみた。

こうして録音を終わらせる。

これを会社に送り、返事を待つ。その間は心臓がやばかった。

、、、

凱人「あ、結果届いてる。」

ついに来た。これをクリックすれば合格か否かが分かる。

さて、希望か、はたまた絶望か。

凱人「天秤はどっちに傾くかな…っと！」カチッ
ロードは瞬間で終わり、結果が出てきた。
凱人「え～っと、
天津凱人様
この度はＶＴｕｂｅｒ採用試験に（中略）
ですので天津凱人様を採用とさせていただきます。
詳しい話についてはいちから株式会社の本社についてお話させていただきます。
お待ちしております。」
合格した。数十秒くらい固まってた。
正気を取り戻し、ようやく実感が湧いてきた。
「いよっしゃあぁぁぁぁぁぁぁぁ！」
近所迷惑なんて知るか。自分の出せる限りの最大音量で喜んだ。
「はぁっ…、１歩、ようやく１歩踏み出せた…」
これで少しは近づけたかな。
こうして僕は、ＶＴｕｂｅｒ「赤月　白人（あかつき　はくと）」としてにじさんじ所属ＶＴｕｂｅｒ人生を歩む事となる。
、、、
合格発表から１ヶ月、モデルも完成してもう配信ができる状態にある今日この頃。
今日は同期で顔合わせだ。同期は僕と合わせて四人。
そして会社の会議室に着く。
中から微かだが話し声が聞こえる。
凱人（ん？女の子が多いか？）
嘘やん。女の子３人とかだったら辛いよ？
そんな事を考えながらドアを開ける。
そこには２０代の前半くらいの男性が１人、かっけぇ（語彙力）。
そして女の子が２人。うん可愛い（だから語彙力）。
？「あ！初めましてー！」
凱人「あ、どうも。」
なんか片方の女の子が話しかけてきた。活発ですねぇ！

そして他の２人も軽く会釈。返して席に座る。
「では始めましょうか。」
今話してるのは僕のマネージャーらしい人。
名を佐藤化理奈（さとうかりな）さんと言う。顔を見るのは初めてだが、若い。多分２０じゃねぇの？
化理奈「ではまず天津さんからお願いします。」
おいおいトップバッターかーい！
と思いつつ席を立つ。最初は大事よ。
凱人「初めまして、赤月白人としてにじさんじ所属のＶＴｕｂｅｒとして活動する天津凱人です。これからよろしくお願いします。」